

災害時テレビ起動機能は、気象庁から警報が出ると電源を切ったテレビでも自動で起動する

トを放送するサービスだ(写真)。「地上波などを視聴中でも、防災情報の画面に自動的に切り替えます。自動起動させる世帯のグルーピングについては、地震は郵便番号単位、避難指示は自治体単位で、狭域への気象情報、避難情報を伝えることができます」(J:COM 通信事業部 アシスタントマネージャー 高木氏)。

このサービスの目的は、住民に伝えるべき防災情報をいち早く伝えることだ。「災害時テレビ起動のコンセプトは、『何かあったとき、もしくは何かが起きる前に、早期に気づきを与えるサービス』と明確に定義されています。災害時にはまずテレビを起動させ、気象情報と避難情報で何が起きているかを知っていただき、その後はより詳しい情報をコミチャンやNHK、インターネットで調べていただくという使い方を想定しています。過去の豪雨災害では、警報が出ているのにそのことを知らない住民の方が結構いらっしゃいました。警報が出ていることを知らないまま流されてしまうという事態も発生しました。災害時テレビ起動はそのようなことを防ぐサービスです」(J:COM 通信事業部 マネージャー 鈴木氏)。

同社は災害報道に活用できる新技術も導入した。昨年から順次全国でスタートした新番組「LIVEニュース」での利用のため、豪州StudioCoast Pty Ltd製ソフトウェア型ライブスイッチャー「vMix(ブイミックス)」を全国の局で導入したのだ。同ソフトウェアにはリモートゲスト機能があり、社員のスマホやタブレットから生中継ができる。これら中継映像やVTR素材のスイッチング、テロップ表示、各種音声をこのソフトウェア上で操作するといった機動力や即

時性が特長だ。「スタッフは局に立ち寄らずに現場に直行し、スマホで撮影するといった取材が手軽にできます。遠隔サブの機能を台風や地震などの有事で使えるように、平時からスタッフのトレーニングを兼ねて放送に活用しています」(日沖氏)。このシステムは災害対策本部での取材や、復旧期の給水所や交通インフラの状況を中継する取材などでの利用に期待されている。現在同社が準備中の、市民記者による取材映像の伝送にも活用される見込みだ。



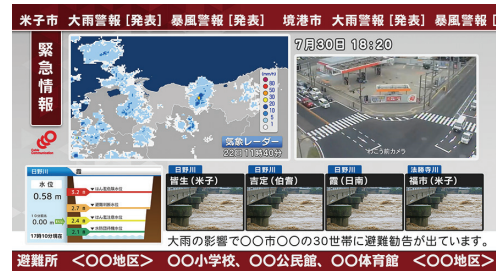
サテライトコミュニケーションズネットワーク (SCN)

「マルチ画面」をさらに強化 「発災前の避難判断」を支援

地震レイアウト



警報レイアウト



SCNの「マルチ画面ソリューション」は河川水位情報や河川カメラ映像などの防災コンテンツを1画面にわかりやすくレイアウトした災害時専用画面と、文字放送レイアウトなど平時用の画面を提供している(画面写真はイメージ)

鳥取県のケーブルテレビ中海テレビ放送は、コミュニティチャンネルの防災情報を強化するリニューアルを昨年行った。同チャンネルで従来から利用していたサテライト



株式会社中海テレビ放送 メディア創造本部 報道部 課長 日高由史氏

コミュニケーションズネットワーク (SCN) の「マルチ画面ソリューション」に河川水位情報と早期注意情報を追加し、豪雨災害などの発災前から住民が避難や減災対策を準備できるようにした。

同ソリューションは1画面の中で最大30カ所のライブカメラやリアルタイムの地域情報を提供できる。普段は道路のライブカメラ映像や天気予報、洗濯指数、花粉情報などの生活情報を放送し、災害時には画面を緊急モードに自動的に切り替えられるのが大きな特長だ。気象警報や地震発生などをトリガーにして、河川水位、河川カメラなど地域の防災情報を1画面に配置した河川レイアウトや地震レイアウトなどの災害時専用画面に直ちに切り替わる。「昨年山陰地方で線状降水帯が発生した際には、突如豪雨となりスタッフを招集しながら取材や情報収集も進める中で、自動的に画面が切り替わり河川カメラや河川水位など各種の防災コンテンツが立ち上がったのはすごく助かりました」(株式会社中海テレビ放送 メディア創造本部 報道部 課長 日高由史氏)。災害時のスタッフの負担を軽減するだけでなく、出社していない深夜に発災した場合にも自動対応できる。

災害時専用画面を構成する河川水位は、夜間で河川の定点カメラ映像で水位が確認しづらい場合でも主要な河川の観測所の現在水位をわかりやすいイラストで視覚的に知らせる。24時間先の危険度や5日先までの警報級の可能性などの予測を示す早期注意情報も、同ソリューションの防災コンテンツラインナップに新たに加わった。これも住民の避難や減災対策などの事前準備を支援するコンテンツだ。「視聴者の皆さんは現在の災害情報だけでなく、今後どうなっていくのかも知りたいのです。気象庁から今後出る可能性のある警報について発表されていますが、気象庁のWebサイトで探さなければなりません。コミチャンで周知すれば、高齢の視聴者の方も事前に身を守る行動をとっていただけます」(日高氏)。

同ソリューションは普段からコミチャンを活用してもらうという視聴習慣を作るためにも、防災情報だけでなく道路ライブカメラや天気予報、洗濯指数などの多彩なコンテンツも用意し、平時にはそれをマルチ画面で鮮度の高い生活情報として放送できるようにしている。

河川レイアウト



通常レイアウト (文字放送レイアウトの例)



防災情報も生活情報も、いかにわかりやすいマルチ画面デザインで表示するかが“利用されるチャンネル”になる決め手となる。同ソリューションは水位情報や危険度情報、台風進路図、気象レーダー情報、地震情報などを視覚的にわかりやすく表現していることも導入事業者が高く評価されている特長で、これをSCNは今回のコンテンツ追加と同時にさらに強化した。コンテンツのデザイン、配置、全体の配色、色味、スーパーが流れる速度、文字のエッジなど細部に至るまで作り込まれ、マルチ画面の多様な情報を1画面でわかりやすく表現する画面全体のバランスも改良された。デザインは導入事業者に応じてカスタマイズすることも可能だ。「河川レイアウトなど当社では思いつかなかったことも実現していただきました。台風の進路図などもわかりやすく表現されているため、視聴者の皆さんに防災情報がよく伝わっていると思います」(日高氏)。